奈川の人口
平成30年3月1日現在

総世帯数	336世帯
総人口	711人
男	339人
女	372人

発　行　奈川公民館
発行者　勝山裕康
編集者　公民館報編集委員会
印　刷　（株）プラルト

年間を通して そば打ちに親しむ

平成29年度、奈川公民館では講師に小林照美さんを迎え、そば打ち講習会を隔月で開催しました。貴重な財産である奈川のそばの文化が、より身近なものとなった講習会でした。

奈川の伝統丸打ちを教わりました

参加者の感想

最初はちょっとのぞき見のつもりでしたが、気が付けば続けて参加していました。和気あいあいとした雰囲気の中で、スタッフの気配りと講師の〝能書きよりも実践・実習〟という指導法が印象に残っています。生まれて初めての体験でしたが、成果の多い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

（吉浦　千代）

郷土文化　味噌づくりを体験

かつて奈川では家々で味噌を作る文化がありました。その伝統を引き継ぎ、味噌を作り続けている方のひとりが、奥原操さんです。

2月27日、子どもたちが味噌作りを体験する機会がありました。奈川小学校2年生の3名が生活科の一環として、ながわ山彩館で奥原操さんに味噌作りを教わりました。炊き上がった大豆を潰したものと、塩と米麹、大豆を煮た後の煮汁である豆汁（とうず）を混ぜ合わせ、保存容器に詰める過程を体験した子どもたちは皆「楽しかった」と声を揃えました。

作った味噌が食べ頃を迎えるのは約10ヶ月後の予定です。

人権啓発視察研修　満蒙開拓平和記念館

奈川・安曇両地区の人権啓発推進協議会の主催で2月26日、人権啓発視察研修が行われ、阿智村の満蒙（まんもう）開拓平和記念館へ20名が赴きました。

中国東北地方に建国された「満州国」へ、日本全国から送られた約27万人もの人々が「満蒙開拓団」です。しかし、日本の敗戦後、帰還を目指した人々の逃避行は悲惨なものとなりました。

奈川からは109名が満州へ渡り、そのうちの約42％の人々が病死などで帰還できなかったことが分かりました。

参加者からは「奈川から大勢の人が満州に行っていたとは知らなかった」との声が聞かれたほか、中には、親族などから満州での体験談を聞いたことがある方もいました。戦争とは、平和とは何かを問いかけられた研修となりました。

満蒙開拓平和記念館にて

今を語ろう　未来を語ろう

各地区の課題や現状、こうしたい、あんな事やこんな夢を語り合う「地区懇談会」が1月16日から各地区で行われ、合計175名が参加しました。

最初は緊張していた参加者も、5年後の自分は？の質問に対して「歩いて健康」「元気に畑仕事」などとふせんに書き出し、次々に模造紙の上に貼られていきました。また、夢を語り出すと課題も見えてくるといった一面もありました。

人口が減少し、超少子高齢化の奈川地区ですが、ふるさとを思う熱い気持ちで寒さも飛んでいくような会となりました。

たくさんの夢や課題がふせんに書き出されました

奈川保育園　大きくなった会

2月14日、奈川保育園にて1年間の成長をいろんな方に見ていただく会「大きくなった会」が開催されました。お父さん、お母さんやお家の方、地域の方々が見守る中、ほし組1名・とり組4名のお友達が歌や劇を披露しました。

5人だけで歌っているとは思えない大きな歌声に、「とっても声が出ていてすごいね。大きな声で堂々と歌えているね」と感心の声があがっていました。

ほし組さんはこの春から1年生。1人で歌った「ドキドキドン！1年生」の歌詞のとおり、新しい生活にドキドキワクワクしていることでしょう。しかし、そんな緊張を感じさせないぐらいの堂々とした姿で発表していました。

お口の健康　みんなで元気

2月6日、奈川地区福祉ひろばにて、ささゆりひろば健康講座が行われ、21名が参加しました。

始めに歯科医師の森下先生から、よく噛むことが脳の老化を防ぐ効果があるなど、お口の健康は全身と繋がっていることを教わりました。

また、理学療法士の横内さん指導のもと、ボールを使った運動にも取り組みました。家にこもりがちな時期でも、できる運動をしましょうとアドバイスを受けました。

ボールを使って楽しく運動

野麦路

「スノーボードとスケートくらいだろうなぁ、見るとしても…」ぐらいに思っていました。終わってみれば、毎日朝から晩までテレビ画面から目を離せない日々。選手たちの熱い戦いに目頭を熱くし、そしてこれまでの道のりは、決して生易しいものではないであろう日々の鍛練に思いを馳せ、一人一人に最大級の賛辞を送っていたのは私一人ではないでしょう。そう、2月25日に閉会した、平昌（ピョンチャン）オリンピックです。本当におもしろかったし、もっと見たかった。

そんな私のオリンピック熱は、平昌パラリンピックへと続きます。競技も楽しみですが、最先端の義肢義足開発の技術の戦いという点ではまた目が離せません。オリンピック並みに盛り上がるといいなぁ、パラリンピック。

（小川　江利）